

スである二階俊博総務会長が別の人物を推し、渋谷広援に回る形になりました」

また、片山氏は東京都連、埼玉県連、愛知県連に所属し知事選の候補としても名前がある。中でも有力視されているのが埼玉県だ。統一地方選前半戦の告示があった三日には、埼玉県議選の応援に入った。

「夏の県知事選で四選を目指す上田清司知事に挑む考えなのでしよう。母方の曾祖父が明治期に知事を務めた話を持ち出し、アピールに必死です」(前出・自民党関係者)

トラブルメーカーの流浪の旅はまだまだ続きそうだ。

## 経済 ユニクロ請負工場 カンボジアでも ブラック告発

四月二日、米経済誌フォーブスが二〇一五年度版の長者番付を発表した。保有資産約二兆五千億円で日本人一位となったのが、ファーストリテイリング(FR)の柳井正会長兼社長だ。その前日、国際人権団体のNPOヒューマンライツ・ナウが、都内で記者

会見を開いた。

ヒューマンライツ・ナウは一月、香港のNGO団体S.A.COMと共同で、FRが運営するユニクロの二つの下請け工場に潜入し結果を公表。違法な長時間労働と賃金水準の低さ、危険な労働環境、違法な罰金制度などを指摘した。

ユニクロ側は即座に「S.A.COMに対して(中略)、早期の対話実現を望んでおります」とし、「これらの取り組みについては、CSRレポートなどを通して適切な情報開示に努めております」とのリリースを発表していた。

一日の会見で、伊藤和子事務局長は、これまで二回のFR側との対話は「スムーズに進んでいないし、情報開示も十分とは言えない」と発言した。ユニクロの担当者からは「検討します」、「(会社)持ち帰ります」との発言が続き、話し合いがなかなか前進しないという。

また先の二工場での調査結果に、柳井社長が一部の例外的な事象だ、と語ったことについて、伊藤氏は、FR社のCSRレポートにも「極めて重大な指摘事項」が七十七工場にあると報告されているに

も関わらず、そうしたトップの認識の低さは「いかがなものか」と疑義を呈した。

さらに、中国より労働環境が劣悪とされるカンボジアでのユニクロとグループ会社のGUの下請け工場の労働者に対する新たな聞き取り調査結果も公表した。

カンボジアでは一日八時間労働が原則で、二時間までの残業しか法律で認められていない。しかし、ユニクロやGU等の下請け工場では二十四時間の連続勤務という実態もあると報告した。法定時間以上の残業に関しては、いったん作業員にタイムカードを押させ作業を続行させるため、記録には残らないようになっている、という。

これに対し、FR側は再度、「改善に向けて協力してまいります」というリリースを発表した。しかし同社に求められていないのは、空手形ではなく、誠意ある実行であろう。(ジャーナリスト・横田増生)

